

会 議 録

名 称	都留市文化財審議会第2回会議	回数	第2回
日 時	令和6年3月6日（水）14時00分～16時00分		
場 所	ミュージアム都留図書情報室		
出席者	【委員】 井上委員、小佐野委員、北川委員、金子委員、小林委員、森江委員、森屋委員 【事務局】 教育長小林、教育次長矢嶋、生涯学習課長補佐平井、 文化振興担当リーダ-知念、ミュージアム都留担当福島		
欠席者	藤江委員、戸澤委員		
議事内容	次のとおり		

1. 開会（司会進行：生涯学習課長平井）

2. 議事（議長は、小林副会長）

ア **資料1** 「都留市商家資料館の今後の検討について」について事務局より説明。

【委員からの主な質問・意見】

○ 尾県郷土資料館のような協会の設置や、そうした組織体における協議を実施することで活用案が出るのではないか。

⇒協会のような組織が望ましいが、現状、小形山と異なり、地元住民において、主体的な活動を図っていく土壌がないことが課題である。市役所からの呼びかけでなく、地域から自発的にそうした組織体が生れることが望ましい。

○ 現状の商家資料館は資料展示しているのみであるため、改めて訪れたいと思う施設にしていくことは必要と考える。地域の自治会や商工会へのヒアリングを通じて、商家資料館におけるハード面やソフト面へのニーズを把握していくのがよいのではないか。

○ 商家資料館の整備計画において、裏口に車いす用スロープを設置している点は良いと思う。車いすでの施設見学はさまざまな自治体で文化財公開施設において課題となっている。今後の整備計画において、車いすでの施設見学についても検討が必要と考える。

○ カフェなどへの利用については、食事を室内で提供することで汚損と文化財害虫を誘引する可能性があることは想定しておいたほうがよい。文化財指定された公開施設を利用した事例を参考に、対策を慎重に計画する必要がある。

○ また将来的に文化財保存活用地域計画に商家資料館の保存・活用を位置付けるという話があっ

たが、今後、保存・活用を考えていくうえで、地元の協力は必要であり、近隣にどのような団体・人材がいるのか洗い出していく必要がある。また、文化財活用の先進地事例の収集も大切だが、組織のマンパワーは限られているため、まずは、都留市と同等規模の自治体の取り組みを参考にしたい。

- 商家資料館を社会科や生活科の授業計画の中に組み込み、教育普及を図っていくのが望ましいのではないか。

⇒各学校予算がシビアな面があり、現地まで来ることができないといった意見を学校から受けている。教育委員会担当部局に働きかけたい。

- 若い年代をターゲットにしていくことは重要と思う。

- 古民家カフェ以外の活用としては、例えば福祉団体が活用することやデイサービス施設としての活用も検討できるのではないか。また、「商家」という歴史的特性を活かしてショップとして利用することも考えられる。例えばシェアショップのように複数団体が参画できるようにすることで、地元利用者のニーズを幅広く満たすスキームが検討できると思う。

- 下天神町における「いーばしょ」を当方は主催しているが、現在、当方の自宅を会場としているため、広い会場が欲しいと感じている。商家資料館も「いーばしょ」としての活用が可能ではないか。

- 博物館で古い資料に触れ、過去の記憶を思い出す「回想法」を通じて認知症予防に寄与するとした、福祉的な取組みも期待できる。

- 年中行事のイベントを親子そろって行う場とするなど、現在では衰退した習慣や今の家庭で行われていないイベントを継承する場とするのはいかがか。

- 他自治体の事例としては子育てサークルなどの活用がある。子どものうちから古民家に親しむに環境として提供してはどうか。また伝統・季節行事を伝える取り組みとして茶道家が月ごとの花を床の間に飾るなどの取組として、茶道団体が活用する事例もある。

イ資料2 「令和5年度の文化財の状況について」について事務局より説明。

【委員からの主な質問・意見】

- 枝折れした箇所については防霉処理などを行っていただきたい。

- 普及活動を業務の傍ら別個に行っていくことは労力がかかるため、企画展や関連イベントを成果報告や普及の機会に使うなど組み合わせていくことが重要である。また注意喚起と合わせて、現状変更等の手続きのフローなどを記載した文化財の手引きの配布を検討したらどうか。
- 文化財での案内板等で周知を継続するとともに、以前に行っていた広報で文化財情報を改めて連載するのはどうか。
- 文化財補助を行った活動を紹介していくのはどうか。

3. その他

ウ資料3 「鍛冶屋坂天神社石灯籠調査報告」について事務局より報告。

- 指定は難しくとも案内板の設置としてはできないのか。
⇒関係部局との協議の上、サイズは小さくなるかもしれないが案内板の設置は前向きに検討していきたい。
- 西桂では文化財案内マップがあり、都留でもそうした取組はどうか。
- 指定文化財未満で貴重なものがたくさんある。市の宝としてリストアップする取り組みもある。市民と対話をする中で、指定文化財予備群として設定するのがよいのではないか。
- このような調査成果を蓄積し、最終的には調査報告書として刊行するのがよいのではないか。

4. 閉会

以上